

「安土セミナリヨ跡地でのミサへのお誘い」

谷口 正大

1974年頃安土町（現在近江八幡市に合併）が安土城の一角に建てられていた「安土セミナリヨ」跡地を史跡として整備し公園化を進めていきました。その地は当時材木置き場になっておりました。

最初に（1973年？）滋賀県の信徒が、安土町の古い公民館の2階にありました畳敷きのホールでミサを奉げ、ロザリオを唱えながらその跡地の前で祈りをささげたのが最初のスタートであったと思います。

その後、当時のカトリック滋賀県連合会も協力して1975年に史跡公園として古屋司教様による最初のミサが県内の信徒と県外の信徒も含め盛大に執り行われました。その後毎年4～5月に記念ミサと信徒の交流が行われてきました。

特に1980年～81年には、セミナリヨ400年を記念して、聖三木パウロの聖骨を迎えました。安土セミナリヨで学び、1586年にイエズス会士となり1596年に逮捕翌年長崎西坂の丘で殉教された聖三木パウロの聖徳を称え、又私たち滋賀県信徒の霊的な宝として末永く称えられるために顕著碑が建

てられました。

永年風雨にさらされ判読出来なくなっていたこの顕著碑の銘板が今年新しくされました。皆様も是非ご覧ください。

扱て、この安土セミナリヨは単に宗教的な史跡ではなく、当時の権力者織田信長が城下の領地を与えたほどオルガンチノ神父をはじめキリシタンを厚遇し、数々の恩恵を与え、自らも度々訪れたといわれています。

セミナリヨでは現代の学校教育では当たり前となっているカリキュラムに従って授業がなされていきました。宗教の他、国語や音楽、体育等も授業として行われていたそうです。特に音楽では我国で最初の西洋音楽、楽器の演奏がなされ、信長公も少年たちの奏でる音楽に耳を傾け満足されたといわれています。

歴史は残酷なものでセミナリヨも安土城も完成後23年で安土の町共々灰燼と化しました。

その後セミナリヨの少年（25名～30名）は京都に逃れましたが1583年にはキシタン大名、高山右近の招きによって高槻に落ち着きました。彼らのその後の事はあまり良く知られていませんが、幾人かはイエズス会士になり、殉教者となり、禁教令下で過酷な生涯を送ったと思われる。

私達はここ数年コロナに振り回され、ともすれば信仰の恵みについて焦点が曇りがちになってきているように思います。滋賀県のカトリック信徒として今年再開されるセミナリヨ記念ミサに与り、聖三木パウロの生涯に心を向けて信仰のリフレッシュを試みませんか。

セミナリヨ記念ミサ

6月17日（土） 13時30分より

